



2



1



3

1_平成13年の「階子乗り隊」復活披露式。80年ぶりに復活した感動の瞬間 2_平成23年に行われた復活10周年記念式典。団員の後ろ姿からは伝統を継承していくという気迫が感じられます 3_毎年1月の出初式での演技披露

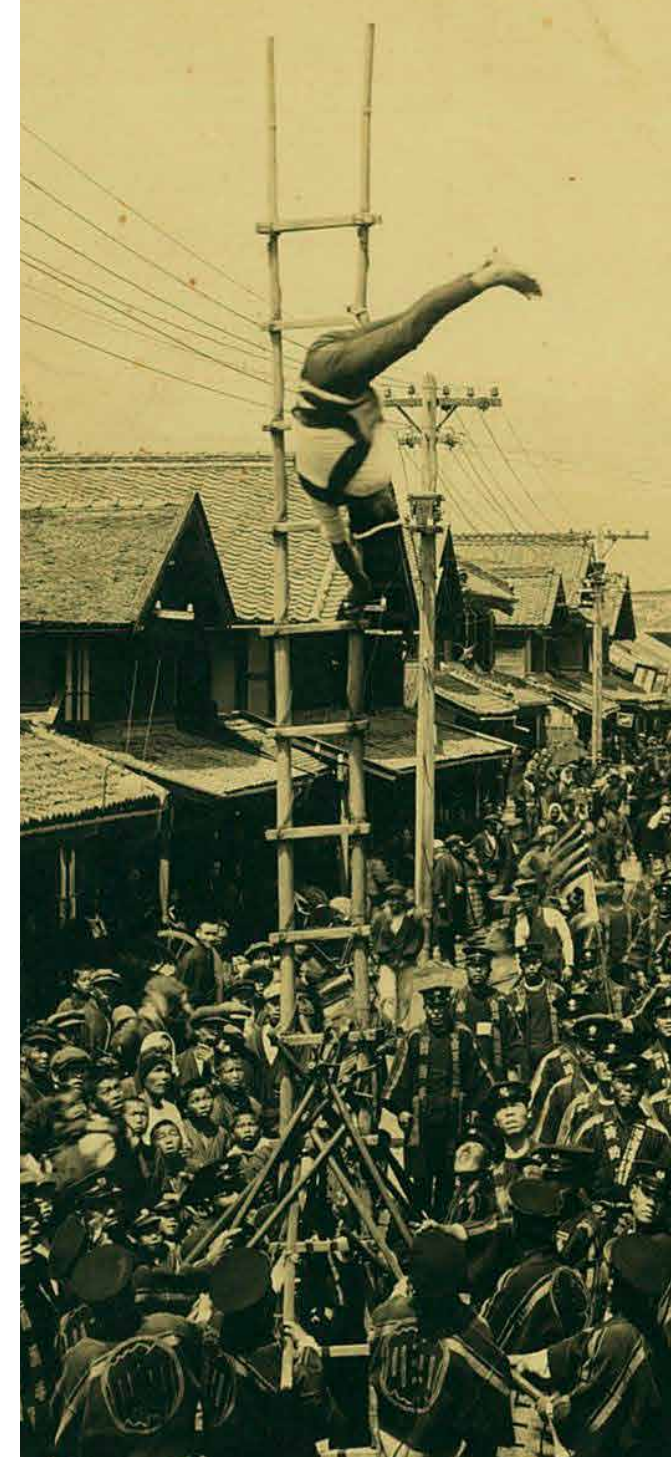
復活後の階子乗り隊
平成19年の出初式からは階子を2基立ち上げ、さまざまな場面で豪快かつ華麗な演技を見せてきました。平成23年10月1日には、白石城本丸広場で復活10周年記念式典を行い、約30人の団員たちの一体となった演技に、観客から大きな拍手が送られました。現在、新型コロナウイルス感染症の影響から市民の皆さん

の前で演技披露は行えていませんが、例年であれば階子乗りは1月の消防出初式から始まり、春まつり、夏まつり、鬼小十郎まつりの年4回の演技披露を行っています。これらの催し物は本市の一大イベントであり、多くの方の目に触れる機会となっています。これからも感動を与えられるような演技を披露し、市民の皆さんのさらなる防火思想の普及と、伝統文化の継承に力を尽くしていきます。



白石市消防団階子乗り隊
復活から継承へ

復活20周年!



80年の歳月を経て復活 伝統を守り続ける



白石市消防団 階子乗り隊
組頭 制野 喜代美 さん

本年度で階子乗り隊は復活から20年を迎えることができました。

これも当時、仙台市消防団のご指導をはじめとした消防関係の皆さんのおかげです。

本市の階子乗りは一度は途絶えてしまいましたが、再び皆さんの前で演技を披露できることを誇りに思います。

現在、階子乗り隊は地区や世代を超えて57名の有志の団員から構成され、演技披露のために日夜鍛錬を重ね、技術の習得に励んでいます。皆さんが健康で平穩に過ごすことができるよう願いを込め、演技の披露をしていきたいと思ひます。これからも乗手、支え手一同、消防団の活性化と地域防災のために尽力していきます。

白石市消防団
団長 大野 芳郎 さん



階子乗りの演技では、乗手は約8mの階子の上で命綱を着けずに技を披露しますので、観客の皆さんは固唾をのんで乗手の一挙一動を見守ります。火消しの心意気をご覧に入れ、消防団の活動に興味を持ってもらえるとうれしいです。

本年度で白石市消防団階子乗り隊は復活から20年という節目を迎えることとなりますが、こうして階子乗りという伝統文化に関わることができるのも、先人たちが連綿と受け継いできたおかげです。次はわれわれが後世へと託す番になります。10年後、100年後でも階子乗りの演技を「継承」できるよう伝統を守り、後進の育成に努めていきたいと思ひます。

REIWA ← TAISHO

乗手と支え手が一体となった迫力ある演技 伝統が受け継がれる

80年ぶりに復活した 階子乗りから20年
白石市消防団階子乗り隊は平成13年に復活し、本年をもって復活から20年を迎えます。階子乗り隊復活のきっかけは、伝統文化の継承と地域の安全を守る消防団の活性化を図りたいという思いから、階子に願いを託し平成13年1月に復活への取り組みが開始されました。
大正11年に中町商店街で階子乗りの演技が披露されている写真が発見されましたが、手順や演技のノウハウが途絶えていました。そこで江戸、金沢と並び「三大火消し」のひとつとして高い技術を誇る仙台市消防階子乗り保存会に指導を依頼することになりました。連日の猛特訓を経て、平成13年12月2日、白石城本丸広場で「階子乗り隊」復活披露式が行われ、団員たちの磨き上げられた勇壮な演技が披露されました。会場から大きな拍手と声援が送られたとき、80年の歳月を経て本市に階子乗りがまさに復活した瞬間でした。